

鹿児島の地質27 かごしま化石発見伝 ～「西之表象」化石 担当 鈴木 敏之

昭和62（1987）年8月，種子島で地質巡検中の県立鹿屋高校地学部員11人が西之表市住吉形之山の国道わきから，大型のセキツイ動物の骨を掘り当てました。形之山周辺は以前から化石が出るのが知られており，昭和59年にはタネガシマニシンの化石も発見された場所です。地学部員たちは地層にたわみのできた荷重痕を目安に掘ってみたところ，大きな硬い物体に当たり，大型ほ乳類の背骨や肋骨が発掘されました。

大学の専門家に鑑定を依頼した結果，新生代更新世中期の前半（約70万～100万年前）に関東地方から中国の華南にかけて生息していたステゴドン属の東洋象の一種ではないかということになりました。

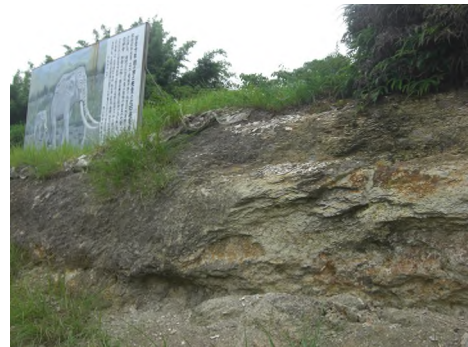


形之山化石群の発掘（昭和62年）

さらに化石は前足の右尺骨，右橈骨，肩甲骨，肋骨の一部であることがわかりました。これまで原始的な東洋象は九州本土では発見されていましたが，離島では初めての発見で，古くは陸続きで豊かな動物相があったことが裏付けられた形になりました。

その後，翌年までの二度の現地調査で東洋象よりもナウマン象の可能性が強まるとともに，新たに豊富な種類の魚や甲殻類の化石も発見されました。

平成7（1995）年には，西之表市教育委員会によって発見場所の形之山に化石から推定された実物大ほどの象を描いた解説の看板も設置されています。



形之山の露頭と「西之表象」の看板

鹿児島の動物31 カメの仲間だよ スッポン 動物担当 山田島 崇文

長さが30cmくらいで，甲羅の表面は非常に平たくて柔らかく，他のカメのように鱗を持っていません。そのため，スッポンの甲羅は，他のカメよりもかなり軽くできています。日本では，古くから食べられており，縄文時代の貝塚から骨が発掘されています。

スッポンは県内各地の河川や池などにすんでいます。クサガメやイシガメと同じような場所に住んでいますが，水中生活により適応しています。スッポンは鼻と首が長く，鼻先をシュノーケルのように水上へ出すことで呼吸できます。そのため，水中で長時間活動でき，普段は水底で自らの体色に似た泥や砂に伏せたり，岩の隙間に隠れ



採集したスッポン

たりしています。肉食で，魚やカエル，水生昆虫などいろいろなものを食べます。また春先の3月から交尾が始まり，だいたい5～8月くらいに産卵します。産卵は河川周辺の砂地などで行われます。卵の大きさは直径2cmほどで，1回の産卵で10～40個産みます。

ときには護岸などで甲羅干し（日光浴）をしている姿を見かけることもあります。主な理由は，日光に当たることで，骨や甲羅を成長させるのに必要なビタミンDを作ることと，体を甲羅干し中のスッポン乾かし，皮膚につく寄生虫や菌類を退治するです。なお，かみつく力が非常に強いので，見つけたときは十分注意してください。



甲羅干し中のスッポン